



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

冬

令和3年

会報 第73号

2021年1月

## 目次

巻頭「コロナ禍のなかの社会的養護」  
報告 第11回子ども虐待をなくそう！県民のつどい  
報告 子どもの居場所担い手育成事業専門研修会  
報告 月の家移転 月の家が目指していること  
ボランティア紹介 ノリノリの会  
寄付・会費納入者 編集後記



月の家  
列入りの夜

## コロナ禍のなかの社会的養護

社会福祉法人養徳園 総合施設長 福田 雅章（本会事務局長）

新年明けましておめでとうございます。

本当に「おめでとう」といえる年明けなのでしょう。暮れからの新型コロナの感染拡大で、新年会は中止、入所している子どもの実家への帰省も、そして卒園生の施設への帰省も自粛してもらいました。

昨年3月からの3か月間、学校休業になりました。児童養護施設をはじめ社会的養護施設（ホーム）が、子ども達が学校に行っている（昼間はいない）ことを前提に成り立っていることを思い知らされました。職員は、子どもが在宅の時間帯（平日なら夕方の帰宅から朝の登校まで）に主に勤務していますが、それが「一日中いる」という状態になるわけですから、職員は体も心も疲弊してしまいます。月の家は午前中から開所しましたし、はなの家も子どもが「いる」わけですからスタッフは休む間がありません。星の家でも、子どもの仕事がなくなったり仕事が見つからなかったりで、在宅の時間が増えてしまいました。学校が再開したことで、月の家は元に戻りましたが、はなの家では大学生がオンライン授業で在宅が継続していますし、星の家の子ども

の仕事の状況は好転する兆しが見えません。

ところで、子ども虐待が深刻化するなか、社会的養護は数ある子育て支援の中でも最後の砦としての役割が期待されています。厚生労働省が4月23日付で発出した「保護者が新型コロナウイルスに感染したことにより入院した場合等の対応等に関するQ&A」では「児童養護施設等において実施される子育て短期支援事業を利用すること」、「児童養護施設等に一時保護委託を行うこと」と記されました。筆者の勤める施設にはこのことで複数の市町より子育て短期支援事業での受け入れの可否についての問い合わせがありましたが、いずれも断るしかありませんでした。施設には数多くの子どもが暮らしています。濃厚接触児を受け入れることで、現に生活している子どもの安全を脅かすわけにはいかなかったからです。しかしながら、今後の感染拡大の状況によっては覚悟をもって最後の砦としての役割を果たさなければなくなることもあるでしょう。心配が杞憂に終わるよう、今一度気を引き締めて感染予防に努めたいものです。

## 11月1日（日）、「第11回子ども虐待をなくそう！県民のつどい」が開催されました。テーマ：虐待を受けた当事者が語る

令和2年11月1日（日）に、「第11回子ども虐待をなくそう！県民のつどい」が開催されました。コロナ禍での開催で、参加者が集まるか心配しましたが、150名の参加がありました。

テーマは、「虐待を受けた当事者が語る」です。前半は、認定NPO法人だいじょうぶ理事長の畠山由美氏に、体罰禁止の法律について説明していただきました。後半は、虐待を受けた当事者4名が登壇しました。現在は、社会人として活躍しています。親となり、子どもを育てている方もいます。司会進行は、養徳園総合施設長の福田雅章氏です。

### Aくん(20代男性、小3で児童養護施設入所)

「義理の父親から、長時間正座だったり、ご飯を抜かれたり。一番ひどかったのは、おしりを固くなるまでぶたれたり…。母親に言っても、見て見ぬふり。逃げ場がなかった。」

「(虐待の影響は)人の顔をうかがう。すぐに嘘をつく。大人全般が嫌いだった。男女問わず大人が嫌い。買い物とか行って、子どもがひっぱたかれているのを見ると、それに対して怒りがわく。」

### Bくん(20代男性、5歳から施設で育つ)

「ご飯食べさせてもらえなかったり、手足を縛られて、動けない状態にされたりとか…。叩かれるのは当たり前。普通の生活がどうなのか、というのがわからなかった。」

「(虐待の影響は)大人の男の人の大声が恐怖。怖い。お父さんが怒鳴りつけていると感じる」

### Cさん(20代女性、高1のとき里子に)

「ちょっと悪いことをするとげんこつ。両親の機嫌悪い時、お酒飲んでいるとき、矛先がこっちにむかってくる。その時の気持ちは、自分が悪いことをしたから仕方がないんだろうな、という感じ」

「(虐待を受けた影響は)人づきあいが苦手。友達の顔をうかがってしまう。カラオケに行っても、楽しいのかな、とか空気悪くないのかな、と感じてしまう。」



### ★社会人として自立している要因は？

Aくん、Bくん

「施設に入って、自分に向き合ってくれた園長とか施設の職員との出会い」

Cさん

「里親さん。駄目なことはなんでダメなのか、と淡々と、長ーく言ってもらって。父親も母親もかっとなったらぱっと叩いて終わり。里親さんとの出会いが大きかった」

「自分を大切にしてください。自分を大切にできなければ子どもに対して、愛情を注ぐことができない。」(Dさん)

Dさん(30代女性、4人の子どもの母親)

「しつけの延長として、祖母から手を上げら

れていた。その時の気持ちは、自分が悪い。怖いし、つらいし、寂しいんだけど、誰か助けて、とか言えない。感情的に怒られるから、とにかく何を怒られているかわからない。怒らなくても、話をしてくれればわかるのに、という気持ちがあった。

「(虐待の影響は)人を信じない、人の顔をうかがう。あと、自分の意見を言わなくなった。大人は信用できないとか、子どもたちからすると大人は違う生き物、話しても聞いてくれないでしょ、とそういう風に強がっていると弱音を吐けない。自分を大切にできない。

「一番上の子を20歳で産みました。家庭にあこがれていて、自分の子どもには寂しい思いをさせたくない、手を上げない、という気持ちだった。でも、手を上げるようになった。心の余裕のなさ、逃げ場のなさ、相談できる人もいなかった。」

「手を上げることは嫌だったし、やってはいけない、とわかりながらも抜け出せない。感情コントロールできず、子どものやることが気に入らない。自分の思うように従わせようとする。子どものかわいがり方がわからなかった。」

「自分の子ども時代、厳しい環境にいたので、愛情をもらっていなかったし、やさしくされた覚えがない。子どもに対して嫉妬してしまっただ。」

#### ★参加者からの質問★

支援する人たちに何か言っておきたいことは？「かわいそうだったね」「大変だったね」という見られ方について、どう感じるのか。支援をする側に気を付けてもらいたいことは？

Bくん

「自分は、『かわいそう』と言われるのが嫌

だ。言わない方がいい。おとしめられる。どん底に。」

「大人の人の言葉で、子どもをマイナスからプラスに持ってこられる。大人が『かわいそう』とかマイナスの言葉を言ってはだめ」

Cさん

「『大変だったね』って、言いたい気持ちはわかる。ただ言われる側からすると、当たり前の日常を送っていただけなので、『えっ』となる。『もう大丈夫だよ。好きにしていよいよ』と言ってほしい。同情する気持ちはわかるけど、虐待された側からすると受け取りにくい。」

Dさん

「虐待を受けた子は、周りにすごく気を遣っている。常に気を張っている状態。安心感、『もう大丈夫だよ』というのが一番だと思う。安心できれば自分の意思を表現できるようになる。」

Aくん

「同情とかしないで、ほかの児童と同じように接してほしい。そして、最後まで見捨てない。同情自体をなくしてもらいたい。」

もう二度と自分たちのような虐待を受ける子どもを増やしたくない、自分の経験が何か役に立てれば…、と快く引き受けてくれました。

4人の勇者たちに、感謝申し上げます。

子どもの居場所担い手育成事業専門研修会（令和2年度 第1回、第2回、第3回）が開催されました。

令和2年度 第1回 令和2年7月16日（木）

テーマ 「子ども虐待への対応と居場所の役割」

講師 前児童相談所長・月の家スタッフ 直井 茂 氏

「虐待を受けた子どもの行動と発達障害を疑う子どもの行動との間に類似性（落ち着きのなさ、衝動性など）がある。」⇒非行や不登校の問題には、虐待が潜んでいることも

#### 内 容

- 全国の児童相談所が対応した児童虐待の案件のうち、施設入所になるのは3%のみ。一時保護をしても家庭戻しになり、在宅支援を行う場合がほとんどである。地域での支援が重要。
- 死亡事例の年齢は、3歳以下で7割を占め、0歳児の割合が、47・3%。
- アセスメントとは、「児童、養育者がどのような背景の中で生きてきて、そこからどのような価値観・人間関係、社会とのかかわりをつくりあげてきたか、をクライアントから教えてもらうこと」（情報収集）
- 虐待の子どもへの影響は大きい。体罰により前頭前野が萎縮し、言葉の暴力により聴覚野が変形する。
- 「一体どのような方法で、この問題に取り組むことができるのか」を考え、提案し、その援助を実施すること
- ネグレクト…自覚を伴わない虐待⇒長期間にわたりダメージが続く。周囲の長期的な継続支援が必要。

#### ○子どもの居場所実態調査から

調理補助やおやつ作りで、食への興味や自分で料理をするようになったことで、表情が豊かになり、感情のコントロールができるようになっていく。こうしたことを通して自己肯定感の回復につながっていく。





令和2年度 第2回 令和2年9月7日(月)

テーマ 「子どもの成長・発達と生育環境」

講師 栃木県公認心理師会会長 秋場 博 氏

**「人間は面倒を見てもらえなければ、生きていけない。面倒を見てくれる人がいない、  
ということは、『死の恐怖である』」**

**「子どもにとって、『この世は生きるに値する』『自分はかけがえのない存在だ』とい  
う自己有能感を感じる必要がある。」**

内 容

・発達がうまくいっていないから、対人関係がうまくいかない。感情コントロールは、小さいころの親などの養育者や、保育園の先生との関係が大きい。

・問題が起きたら、その場で子どもに伝えることが重要。「怒ることは仕方がない。でも、それでも殴るのはよくないね」⇒代替行動を提示する。

・トラブルが生じにくいように環境を調整する。問題行動をなくそうとするのではなく、「適切な行動を学習する」「行動のバリエーションを増やす」よう指導する。

・養護問題を抱える家庭の特徴⇒援助を必要としているにも関わらず援助の求め方がわからない家族。

・支援の目的は親の子育てストレスの軽減。親に対する共感的態度、不適切な養育を余儀なくされている心境に対する共感的理解。具体的援助をし続けていく。時間をかけて援助関係を築く。関係が築けるまで他の援助者に容易にバトンタッチしない。

**「自立とは、心のなかに養育者を取り入れること」**

**「こころの発達に必要なものは、身体的、**



**心理的に守られていること」**

★参加者の感想★

・アタッチメントは乳幼児期の問題と思っていたが、学童、青年になっても大きな大切な問題であることが理解できた。

・子どもの問題行動の背景に何があるか、アタッチメントの問題がある。どうすればよいのか。子どもの感情を一緒に言語化し、共感し、「～という気持ちで、～したのね」と伝えていく。居場所でも、今日の研修が役に立つと感じました。

・問題行動を起こした子どもに、「だめなものはだめ」ではなく、共感的理解をもってかかわる大切さを感じました。安全な避難所、安心基地の存在になれるような関わりをしていきたい

い。

令和2年度 第3回 令和2年11月9日(月)

テーマ 「事例検討の方法を学ぶ」～実際に、事例検討会を体験してみよう～

事例提供 おひさま 高橋 弘美 氏

司会進行 担い手育成事業主任コーディネーター 鈴木 友之 氏

助言者 児童養護施設養徳園心理士 東 瑞恵 氏

助言者 「月の家」スタッフ、前児童相談所長 直井 茂 氏

進 行

- |          |     |
|----------|-----|
| 1 概要説明   | 20分 |
| 2 質疑応答   | 20分 |
| 3 支援経過説明 | 20分 |
| 4 グループ討議 | 30分 |
| 5 まとめ    | 10分 |

内 容

1 概要説明 おひさま高橋氏

- ・小学校中学年男児
- ・スタッフに懐かない
- ・勝手なふるまいが目立つ
- ・居場所での処遇困難事例

4 グループ討議(抜粋)

- ・嫌なことがあったら暴れる、というのが、インプットされているのでは。
- ・問題が起きた時大人はこういう気持ちなんだ、と伝える。
- ・スタッフ同士も忙しくてじっくり話すことがない。みんなで共有することが大事。
- ・注意するばかりではなく、子どもと楽しい時間を過ごす。
- ・どの居場所でもあるケース。居場所を孤立させてはいけない。
- ・居場所が安心できる場だから、問題行動を出しているのでは。
- ・市と学校と居場所の会議、定期的に持てたら



いいのでは。

5 まとめ

東氏

- ・この子に対する理解。愛着関係(母の応答性はあったのか)。情報が少ない中で、生い立ちを想像するしかない。
- ・おひさまの中で、この子にとって安心できる生活は何か。生活でのルール、枠づくりは何かできるのでは。

直井氏

- ・アセスメントなくして支援計画はない。母がどのように育ててきたか。どんなところが良かったか、悪かったのか。良いところ探し。職員が拾って、良いところを強化する。

高橋氏

- ・事例検討の資料を作っていて、改めて気が付いた部分も多かった。
- ・愛着の部分、専門の心理の人にサポートしてもらえれば、家族の状況が改善するのでは、

と感じた。

(子どもの居場所担い手育成事業 片桐秀子)

月の家は移転しました。これを機に改めて月の家のことを知ってください。

宇都宮市の土地区画整理事業により月の家は移転せざるを得ず、7月に引っ越しました。新たな場所で再スタートを切りました。



引越し前、月の家の壁に貼られていました

平成26年7月の開設から6年間、大家さんをはじめ近隣の方々には大変お世話になりました。(引っ越してから、ハロウィンやクリスマスなど交流は続いています。とてもうれしいことです。)

これを機に月の家の出来事を皆さんに知ってほしいと思います。

#### 【お母さんとのある日の事】

月の家に来ている〇〇ちゃんのお母さんから連絡が来ました。

「娘と喧嘩をしてしまい、出て行ってしまった。ラインが来て『今日は帰らない』と言っている。」

お母さんは娘の困っていることや不満を話しました。

私が「心配なので、本当に今日帰らないのであれば、警察に相談をする必要がありますよね。」と言うと、お母さんは、「そうですね」としばらく考えた様な様子で、「やっと学校にも行くようになって警察沙汰になるのは娘がかわいそうで…」

その言葉は、警察に相談することを面倒くさいとか、警察沙汰になることで親御さんが迷惑だからではなく、娘が心配だけでも悩んでいるお母さんの正直な気持ちだと感じました。

私は、「お母さんの今のその気持ちをそのまま、〇〇ちゃんに伝えてください」と話しました。

このやり取りの後、〇〇ちゃんは家に帰ってきました。

#### 【〇〇ちゃんとのある日の事】

夜、〇〇ちゃんからラインが来ました。

〇〇ちゃん「今、会って話せない？忙しいかな」

私「どうした？」

〇〇ちゃん「お話ししたい」

私は夜も遅かったため、電話で話すことにしました。〇〇ちゃんは、お母さんの事で相談がしたかったようですが、布団の中での電話だったので、「今夜はそのまま寝て、明日会おう」という様に伝えました。

そして次の日、〇〇ちゃんと車の中で、お母さんの話を聞きました。私は、〇〇ちゃんがお母さんを心配する気持ちが伝わってきて、それをお母さんに伝えてあげたいなと思いました。

月の家の目的は次の通りです。

「在宅にあって十分な養育を受けられない子どもまたは虐待環境に置かれている子どもの育ちを支援するとともに、その保護者の子育てを支援することで、子どもの社会的自立を図り、ひいては虐待や貧困の連鎖を断つことを目的とする。」

【お母さんとのある日の事】と【〇〇ちゃんとのある日の事】を通して、月の家の私たち大人が親御さんや子ども達と関わることで、親御さんの心の中にある子どもへの想いや悩み、子どもの親御さんに対する想いや悩みを知り、伝えられることは大切だと思うのです。

月の家の日常の中で、子ども達や親御さんの心の中を知ることができる一瞬があります。この一瞬を感じ取れる様、子ども達や親御さんとの日々を大切にしていきたいと思っています。

星の家に来る15歳以上の子ども達は、小さい時から、子ども達の親御さんに対してのしんどい気持ちを誰にも言えずに来る子が多いです。ホーム長が星の家に来る子ども達の出会いを通して、「もっと早くに子ども達に出会わないと遅い」との思いもあり、月の家を始めました。

(月の家 星美帆)

## ボランティア紹介 —ノリノリの会—

月の家をボランティアで応援する任意団体「ノリノリの会」のご紹介です。会員は大学生から社会人までライン登録37人、月の家が大好きな人なら誰でも参加できる、サポーターの団体です。

縁の下のサポーターを趣旨に4年前に発足したこの会、今では1年通して大小の活動があります。1番大きなイベントは、毎年11月に鬼怒川緑地公園で開催する運動会です。月の家の子どもたち17人に加えてもうひとつ、市内にある同じ子どもの居場所「アットホームきよはら」から12人の子どもたちが集まって子ども29人、大人30人で開く大運動会。この大会のお手伝いをノリノリの会がしています。

運動会当日は10人以上の会員が集まって荷物の準備から場所取り、昼食の調理まで行います。ボランティアでの参加ですが、充実感があります。運動会に集まった子どもたちの笑顔、

困む大人たちの笑い声、どこを取っても楽しい1日です。

運動会の他には、とちぎボランティアネットワークが開催する「サンタ de ラン」の会議に月に1度、月の家職員さんの代役として参加する活動もあります。これは多忙な職員さんの代わりに会議で話を聞いて来ます。

昨年10月には、鬼怒川の同公園で1日遊びまわるレクリエーションも開催しました。月の家の子どもたちと大人が縄跳びから鬼ごっこまで遊び、バーベキューでお腹をいっぱいにする大満足のイベントです。

残念だった活動もあります。コロナ渦で中止になったイベントです。夏休みに開催予定だった「月の家キャンプ」。このキャンプは21年、必ず実行したいイベントです。

月の家にはノリノリの会以外に調理、送迎など多くの人たちがボランティアで参加してい



ます。どのボランティアも月の家が大好きな人  
たちばかりです。「私も何かお手伝いがしたい  
な」という方はぜひ一緒にノリノリの会でボラ

ンティア活動いたしましょう。

(ノリノリの会 送迎ボランティア 木村信夫)

## 《事務局から》

前号で「星の家まつり」及び「チャリティーコンサート」の中止に伴う  
減収を補うために緊急寄付を呼びかけましたところ、多くの方々にご協  
力をいただきました。お礼申し上げます。

## 寄付・会費納入者

令和2年7月1日から令和2年12月  
末まで 敬称略・順位不同

### ●正会費

青木伸恵 阿久津マキ子 浅香 勉  
浅香のり子 石川浩子 糸井 克 岩田友子  
岩本友子 植竹 清 内山成史 江田郁夫  
遠藤 忠 大堀美知 小川暢子 小材嘉子  
小友 茂 粕田晴之 片桐洋史 加藤祥圭  
加藤雅子 金子哲也 金子 達 川上寿一  
北村光弘 倉田克己 毛塚義明 越井みどり  
小林幸正 小堀 泉 近藤峰明 齋藤幸子  
齋藤修一 齋藤 禎 齋藤洋子 坂本真紀子  
篠崎孝子 渋川典子 白上桂子 杉浦一正  
鈴木友之 鈴木正美 高橋昭彦 高橋文吉  
高原恵子 武田陽一 田崎祥江 千野ヤイ  
萩原耕三 塙 智江 馬場友治 早坂富士香  
桧山康子 平岡真由美 福澤宏文 福田ミヨ  
藤井幸子 細野重信 益子 亨 増淵ヨシエ  
増山民江 増山 均 山口恵子 山田みやこ  
渡辺やす 渡辺ヨシ子

### ●賛助会費

阿部充子 阿部美代子 荒川明美 池 節子  
池田とし江 石塚和子 伊藤孝子 伊藤 一  
井上紀代子 今井 忠 岩村由紀乃  
岩室紳也 植田利江 上野貞雄 大木一俊  
大木時子 太田黒武久 大田原恵子  
大塚武昭 大野育代 大平友子 小川 薫  
小川 守 影山義恒 片岡ふさ子 金澤伸子

川崎直美 菊池崇訓 喜内静美 喜内敏夫  
君島健一 桐原美佐 古口 保 小島成樹  
小平悦子 齋藤孝子 齋藤信子 佐藤久美子  
佐藤文代 佐藤正徳 佐藤正行 佐藤善光  
芝野行雄 渋井洋子 下山千恵子 白井正枝  
東海林深喜 鈴木恭子 関谷好久 高久礼子  
早乙女順子 高野静子 高野孝男 高橋由美  
高橋真知子 瀧澤由紀子 館野晴代  
田村 隆 長 正英 塚本明子 槌江徳子  
鶴田智子 鶴田 誠 手塚由喜 東城 守  
豊島優子 長島久登 中村和夫 中村右子  
那須恵子 西村慈祐 西山智彦 根本智子  
萩原寿夫 橋本正行 原田寛子 伴 純子  
日野奈々子 平野 敬 廣瀬 裕 福田泰子  
福田喜江子 福田仁美 藤岡浩美 藤平浩史  
藤田美代子 古澤栄子 増田容子 増淵雅子  
増茂尚志 松浦万里子 村上信子 村山博之  
村山好美 安 正幸 湯澤千恵子 吉川泰夫  
吉澤卓男 吉田依子 米山雅子 林谷和憲  
林谷政子 和久井隆 渡辺秀子 渡部桂子

### ●寄付

カルビー(株) (株)ニッカネ (有)宇都宮能開  
(株)太陽警備保障内宇都宮キワニスクラブ  
(株)ガス検 東京電力労働組合栃木地区本部  
栃木少年友の会 那珂川町更生保護女性会  
茂木町保護司会茂木更生保護女性会  
学校法人さつき幼稚園 社会福祉法人成裕会  
とちぎJ-P 生活協同組合  
医療法人ひだまりの森クリニック理事長齋藤義弘  
MCC 峰町キリスト教教会光と風の家

阿久津美千代 浅香 勉 浅香のり子  
東 瑞恵 阿部充子 荒井敏子 荒川明美  
飯村浩子 池 節子 池谷正宏 石川浩子  
石塚 毅 石原敏江 糸井 克 岩田三恵子  
岩室紳也 浦部延子 江田郁夫 海老原清修  
遠藤 忠 大浦智子 大嶋洋子 大野育代  
大平友子 岡部昇子 岡本貞子 岡本末和  
小川暢子 荻町 守 小材嘉子 長田和代  
小友 茂 尾野恵子 小野崎千鶴子  
柿沼真理 笠原雅江 粕田晴之 片岡昌子  
加藤力三 加藤準一 加藤祥圭 加藤雅子  
金川実千代 鎌田篤子 上岡正行 川上寿一  
川田俊彦 菊池崇訓 菊池光子 岸本都史夫  
君嶋則子 熊谷信子 倉田一成 倉田克己  
倉前満里子 栗原 郁 栗原まり子  
黒須美波子 小島成樹 小平光志 児玉恵里  
後藤 隆 小林幸正 小堀 泉 小堀栄美子  
小森峯子 近藤峰明 齊藤 明 斎藤一明  
齋藤幸子 齋藤修一 斎藤孝子 斎藤好江  
坂入暎子 坂本政子 佐藤明宏 佐藤貴美子  
佐藤文代 佐藤マサノ 佐藤善光 塩澤幹雄  
澤田加奈子 椎野三千子 塩澤久美子  
渋川典子 下里敬明 須賀邦子 杉浦一正  
鈴木恭子 鈴木友之 鈴木光代 仙波美恵子  
高木 勇 高野孝男 高橋昭彦 高橋真知子  
高原恵子 竹内敏雄 竹原豊子 館野晴代  
田村孝夫 多門 孝 東原正記 塚本明子  
槌江徳子 土屋キミ 鶴田 誠 寺内晴美  
豊田省子 長嶋須美子 長島久登 永野弘子  
永田ひろ子 中村和夫 中村和子 那須恵子  
西村慈祐 萩原耕三 萩原寿夫 橋本恵子  
橋本美奈子 八谷直子 塙 智江 伴 純子  
早川美奈子 早坂富士香 日原典子  
桧山康子 広岡智子 広田晃三 福泉水玲

福澤宏文 福田泰子 福田知美 福田初美  
福田ミヨ 古頭岳夫 星 美帆 細野重信  
本郷秀吉 本田広美 本田理恵 増渕雅子  
増山律子 松島輝幸 松永昌子 水谷千津子  
皆川有子 村山雅子 安田健太郎 山口恵子  
山口静江 山口貴志 山口洋子 山崎順子  
山崎民雅 山田昭利 横松 晃 吉川泰夫  
吉田佳子 吉田依子 米山雅子 和久井隆  
鷲尾良司 渡辺厚子 渡辺秀子 渡辺ヨシ子

#### ●団体会費

社会福祉法人成裕会 芙蓉地質(株)  
㈱ガス検 福田こどもクリニック  
弁護士法人のぞみ法律事務所

なお、沢山の方から食品や日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら事務局までお問い合わせください。会費の納入及び寄付については預金口座の引き落としも可能ですので事務局にご相談ください。

#### 【編集後記】

コロナ禍で仕事が…。居酒屋のバイトが決まると喜んでいたA子、その矢先栃木県にも緊急事態宣言が出され、内定が取り消しとなり待機を余儀なくされています。

3月に派遣切りであって星の家に戻ってきたB子、10月には就職が決まり退居しました。大丈夫かな。(福田)

#### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\* 通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

\*\*\*振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落とし」のご利用をお勧めしております！\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

発行日/ 2021年1月

発行責任者/ 星 俊彦

編集責任者/ 福田雅章

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

HP/ <http://www.jiritsu.org>

